

ニホンカワウソ生息状況調査事業

調査概要（24年度・25年度）

【目的】

ニホンカワウソは、豊かな愛媛県の実然のシンボルともいえる存在であり、環境省が絶滅とした後も県内で目撃情報が寄せられることから、チラシを作成するなどして広く情報を収集するとともに、目撃情報のある地域で現地調査等を実施した。

【委託調査内容】

○調査者

平成24年度 愛媛県レッドデータブック改訂委員会哺乳類分科会
平成25年度 ネイチャー企画

○調査地点

県民等から情報提供のあった場所で生物多様性センター（委託会社）が生息の可能性があると判断し専門的な調査が必要と判断した場所等

○基本的な調査方法

糞、足跡、食痕、爪痕、営巣の跡等を詳細に調査するとともに、自動撮影カメラを設置し生息状況を確認した。

愛 媛 県

【平成24年度調査】

1 調査対象地域と調査期間

調査対象地域：愛媛県内

調査期間：平成24年10月15日から平成25年3月22日

※レッドデータブック改訂事業における改訂調査の一環として実施

2 調査の内容と方法

(1) 聞き取り及び現地調査

平成24年8月、環境省の4次レッドリストでカワウソが絶滅種と評価された。その報道がなされて以降、自然保護課、文化財保護課、生物多様性センター、総合科学博物館、とべ動物園を窓口にして、寄せられたカワウソに関する情報をとりまとめ、必要と判断した情報について、再度電話や対面式の聞き取り、現地環境確認を行なった。また、既存の資料から過去にカワウソの生息が明らかな地点数箇所について、現況確認のために現地調査を行なった。

(2) 自動撮影カメラの設置

現地調査をした地点の何地点かに自動撮影カメラを設置して、情報の確認に努めた。自動撮影カメラは、温度分布の変化を感知して撮影される仕組みのもので、Bushnell社製のデジタル自動撮影カメラ Trophy Cam119435、119436、Tasco社製のデジタル自動撮影カメラ Tasco 5.0 Trail camera を使用した。

3 調査の結果

平成24年9月以降、自然保護課、生物多様性センター、とべ動物園に寄せられたカワウソに関する情報が16件あった。そのうち過去15年間の愛媛県内での目撃情報は12件であった。

その中から、再度電話での確認や直接出向いて対面聞き取りによる確認をした情報が4件、現地環境確認を行なった情報は5件だった。現地調査を行なった2地点に自動撮影カメラを設置した。また、既存の資料から過去にカワウソの生息が明らかな地点2箇所について、現況確認のために現地調査を行なった。

※調査結果の詳細は別紙【平成24年度】表1・表2を参照

4 まとめと課題

平成24年度の調査では、目撃情報等をもとに現地に赴き踏査を行なったが、カワウソのものと断定できるような体毛、足跡、糞や食痕といった痕跡は発見されなかった。また死体や個体が写真に撮影された、という直接的な存在を示すものも得ら

れなかった。しかしながら、痕跡等が発見されなかったことで寄せられた目撃情報を単に否定するものではない。現在、カワウソの調査に専従の調査員がいるわけではなく、現地調査に費やせる時間は必ずしも十分であるとは言い難い。そのような状況の下で得られた調査結果のみで県下のカワウソの生息の有無を断定することは危険である。単年度のみで終わらせるのではなく、来年度も同様に調査を継続させ、生息の証拠となり得るものに遭遇する可能性を高める必要があると思われる。

環境省が絶滅種に指定したことが報道されたことにより関心が盛り上がり、県の情報提供の呼びかけに対しても、比較的多くの反応があったように見受けられる。寄せられる情報の年代や内容の濃さにはばらつきがあるものの、市民の中に埋もれている情報を発掘することは重要であり、限られた数の調査員のみによる情報収集に頼るよりは、効率の良い手段と思われる。今後も同様に市民からの情報を生かす体制を維持し、一時的なブームで終わらないよう関心を持続してもらうことが課題となる。

別紙 【平成24年度】表1 寄せられたカワウソ等動物目撃に関する情報(補足情報含む)

番号	年月日	時間	地域	情報要点	カワウソではないかと提供者が判断する要素
1	2012/8/27	22時頃	南予	歩行姿を目撃(車運転中)。	あご下白いのでタヌキやハクビシンではない。
2	2012/9/14時点 に最近複数回		中予	見かける。	イタチより少し大きく、ハクビシンやタヌキではない。
3	2012/10/14	18時頃	中予	コオロギを探していたと思われる様子を目撃(ライトを当てられる距離)。	タヌキでなくイタチより大きいコツメカワウソによく似る動物。
4	2012/7/7	昼	南予	川を泳ぐ姿を目撃(車で移動中助手席の女性)。	タヌキやハクビシンより大きい。
5	2013/1/20頃	20時頃	南予	池で目撃。	昔カワウソを見たことがある。
6	2003年頃の2月 (2013年の10年 ほど前)	真夜中	東予	錯誤捕獲後放獣。	今まで見たこともない獣で、足の裏の肉球に吸盤があり、水かきがあったのでカワウソと分かった。目と耳は小さい。頭部は先が尖っていて平べったい(四万十の剥製とそっくり)。
7	1958年頃		県外	昔たくさんいた。	
8	2007年頃		南予	谷川へおりるところを何度か目撃。	
9	2004、2005年頃	18時前後	中予	泳いでいるところを目撃。	
10	2011年10月下 旬		中予	泳いでいるところを目撃。	波に合わせて飛ぶような、浮くような泳ぎ方をしていた。 80cm位あるように見えた。
11	1950年頃		南予	移動を目撃。	カワウソが田と川を行き来する。
12	2012年9月下旬		中予	水に飛び込む姿を目撃(50メートルくらい先)。	ヌートリアかカワウソか教えてほしい。 茶色で、飛びこんだ後、大きな水の輪ができた。 50メートルくらい先で見たので詳細は不明。
13	1950年頃	夜	南予	夜釣り中に獲物を眼前で盗られた。	針にかかった獲物が手に届く直前にカワウソに盗られた。
14	2012年夏頃	9:15	南予	散歩中にカワウソのような動物の後姿を目撃。	カワウソのような動物の後姿。 背中が白っぽい色(灰色)で、人間ぐらいの大きさ。
15	2012/12/22	15時頃	県外	イタチの様な生き物が池に飛込んだのを目撃。	姿をはっきりとは見ていない。 同行者が「かわうそ?」と言っていた様に思う。 かわうそ以外の水生の哺乳類かもしれない。
16	1998年頃	朝方から日 中	南予	釣りの最中に釣り餌の落ちたものを食べる姿を目撃。	

別紙【平成24年度】表2 寄せられた情報に対する対応と過去の生息地の現況確認調査

番号	地域	対応日時	行動1	結果	対応日時	行動2	結果	対応日時	行動3	結果
1	中予	2013/1/17	現地環境確認	現地に到達し、池の周辺の踏査と写真撮影。カワウソの可能性ゼロとは思えないが、周辺にブドウ園が多く、情報の寄せられた9月中旬がブドウの収穫期であることを考えると、ブドウを目当てに出てきている動物の可能性が高い。誤認対象として、ハクビシン、タヌキ、テン等が考えられるが、ハクビシンやタヌキではないと言っていることや、イタチより少し大きいと言っていることからテンの可能性が高いと思われる。池は直径40mほど、そこから3面張りの水路が出ている。	---	---	---	---	---	---
2	南予	2013/1/15	電話確認	場所の特定を試みたが本人も明確にできず、同行の申し出があった。	2013/1/23	現地環境確認	電話聞き取りで得られた場所の近辺を車で通ってみたが、車中から川を見下ろしせるような場所を愛媛県内では見つけられなかった。県境付近の隣の県側に、情報にふさわしい場所を見出せたので、地図中に記録し、環境写真を撮影した。ただし、道路と川の距離などは聞き取り内容と一致はしない。	---	---	---
3	南予	2013/2/9	対面聞き取り	「時間は夜19時半から20時、車で走行中山に側から池側にサッと走る個体目撃、車から10m、1頭で体長は尻尾抜きで30~40cm、茶色系に見えた」聞きとり内容からはカワウソかどうかは不明。ちょっと小さいように思われる。後日その他二名の知り合いも付近で何かしら動物が横切るのは目撃したことがあるとのこと。	2013/2/9	現地環境確認	現地へ案内され到達し周辺を踏査。現場畑の溝に中型哺乳の足跡があるが一部の為正体不明。	2013/2/9 2013/2/13	自動撮影カメラ設置	2月9日に1台、13日に1台カメラ設置。9日に設置したカメラの画像を13日に抽出(撮影されたものは、イノシシ、タヌキ、ネコ)。現在、それら2台が稼働中。
4	東予	2013/2/7	対面聞き取り	当時の状況や捕獲された獣の様子など詳細な情報を得たが、頭の形状や肉球の様子、歯の印象などにカワウソのそれらと合致しない部分も含まれ、それに合致する獣の候補もあがらないため判断に窮する。	2013/2/16	現地環境確認	現地に到達し、一帯を踏査。川と道路をつなぐ獣道、道路下をくぐる土管、道路の斜面側に側溝などがあり、川と山側を行き来する環境は認められた。また、川に面して、山を貫く多目的通洞の開口部が見られ、カワウソが人目につかずに過ごせる環境も認められた。	2013/2/16	自動撮影カメラ設置	川と道路をつなぐ獣道途上の2箇所1台ずつ、計2台を設置。現在、それら2台が稼働中。
5	南予	2013/1/10	電話確認	目撃時の状況など以下の詳細な情報を得た。散歩していてバサバサという音がしていたので、橋の上から覗くと、階段の所で何か食べている動物を見た。その後、地元の小学校の方まで歩いている時に、海に泳いでいっている音と気配があった。3年ほど前から歩いているが、音は何度か聞いていたが、姿を見たのは初めて。その後は見ていない。	2013/1/11	現地環境確認	現地到達し、目撃の距離等確認。環境写真撮影。目撃距離は思ったより近いが、夜間の視野がどの程度のものかは確認できなかった。	---	---	---
6	南予	2013/2/9	過去の生息地の現況確認	海岸の岩場を踏査して糞や食痕を探したが、カワウソの目撃や生息を裏付ける痕跡の発見はなかった。また、潮干狩りに来ていた住民の方にカワウソについての情報を求めたが、過去の生息を示すのみであった。しかし、カワウソが生活できる環境は残っていると思われ、引き続き注目すべき地域である。	---	---	---	---	---	---
7	南予	2013/1/29	過去の生息地の現況確認	池周辺と海岸を踏査して足跡や糞、食痕を探したが、カワウソの目撃や生息を裏付ける痕跡の発見はなかった。また、渡船に乗り合わせた住民の方にカワウソについての情報を求めたが、過去の生息を示すのみであった。しかし、カワウソが生活できる環境は残っていると思われ、引き続き注目すべき地域である。	---	---	---	---	---	---

【平成25年度調査】

1 調査対象地域と調査期間

調査対象地域：愛媛県内

調査期間：平成25年4月15日～平成26年3月20日

2 調査の内容と方法

(1) 聞き取りと現地確認調査

本事業では、2013年3月以降、自然保護課、文化財保護課、生物多様性センター、総合科学博物館、とべ動物園、宇和島市、ネイチャー企画を窓口にし、寄せられたカワウソに関する情報をとりまとめた。より詳細な情報が必要と判断されたものについては、再度電話や対面での聞き取りを行なった。また、現地にて、より有用な情報が得られる可能性がある場合には、現地環境確認を行ない詳細な情報の収集、カワウソの痕跡の確認に努めた。現地確認調査のうち島嶼部に渡る必要が生じた場合は船による海上からの視察や島への上陸も行なった。

(2) 自動撮影カメラの設置

現地確認調査をした地点のうち、カワウソの生息の可能性がより高いと判断された場所に自動撮影カメラを設置した。自動撮影カメラは、温度分布の変化を感知して撮影される仕組みのカメラで、Bushnell社製のTrophy Cam119435、119436、119437、Tasco社製のTasco 5.0 Trail camera、Moultrie社製のM-990iを使用した。自動撮影カメラは数ヶ月ごとにデータ回収と点検を行ない、最短でも1年間継続して設置することを原則とした。

3 調査の結果

(1) 聞き取り調査と現地確認調査

2013年3月以降、自然保護課、生物多様性センター、ネイチャー企画等に寄せられたカワウソに関する情報が14件あった。そのうち11件が2011年以降の愛媛県内での目撃情報であった。その他の3件の内訳は高知県での目撃が2件、埼玉県での目撃が1件であった。本報告では県内の情報のみを調査対象とし、これらの3件を除く11件を調査対象とした。得られた目撃情報は東予地方で1件、中予地方は0件、南予地方で10件であった。

2013年3月以降に寄せられた県内での目撃情報11件のうち、確認がとれ、詳細な情報が必要と判断された10件について聞き取り調査、もしくは、より有用な情報が得られる可能性があると思われた場合は現地確認調査を行なった。

電話や対面での聞き取りを行なった結果、目撃されたものがカワウソであるか、その他の動物であるのかの断定はできないが、更なる情報の補足は難しいと予想されたため、3件は現地確認調査を見合わせた。

より有用な情報が得られる可能性があるとして、7件について現地確認調査を行なった。

※調査結果の詳細は別紙【平成 25 年度】表 1・表 2 を参照

(2) 自動撮影カメラの設置

目撃情報により現地確認調査を行なった南予地域の4地点すべてにおいて、1台ずつ自動撮影カメラを設置した。以上の4地点ともに、2014年3月時点で設置継続中である。

また、平成24年度調査において2013年2月に南予地方に設置した2台と東予地方に設置した2台は、設置後1年が経過したため2014年2月に回収した。カメラ4台分については設置開始日から回収日までの前年度と今年度の結果を合わせて報告する。

※調査結果の詳細は別紙【平成 25 年度】表 3・表 4 を参照

4 まとめと課題

平成25年度の調査では、目撃情報をもとに現地に赴き踏査を行なったが、カワウソのものと断定できるような体毛、足跡、糞や食痕といった痕跡は発見されなかった。また死体や個体が写真に撮影された、という直接的な存在を示すものも得られなかった。しかしながら、痕跡等が発見されなかったことで寄せられた目撃情報を単に否定するものではない。現在、カワウソの調査に専従の調査員がいるわけではなく、現地調査に費やせる時間は必ずしも十分であるとは言えない。そのような状況の下で得られた調査結果のみで、県下のカワウソの生息の有無を断定することは危険である。生息密度の極めて低いとされるカワウソの生存を検出するのは容易なことではなく、なるべく長期間調査を継続させ、生息の証拠となり得るものに遭遇する可能性を高める必要があると思われる。

県内各窓口に寄せられる情報件数は、環境省が絶滅種に指定したことが報道された2012年8月、県が情報提供啓発チラシの発行を行なった2013年2月、また宇和島市内の情報誌「きずな」vol.24にチラシの紙面が掲載された2013年6月直後に比較的多くの反応があったように見受けられる。ここ数ヶ月の情報提供数の低下は古い情報が出尽くしたことによるものとも考えられるが、関心が薄れてきていることの表れであると言うこともできる。寄せられる情報の年代や内容は様々であり、広く一般の方々からの情報を発掘することは重要であることが確認された。今後も引き続き情報を生かす体制を維持し、関心を持続してもらうことが課題となる。

別紙【平成25年度】表1 寄せられたカワウソ等動物目撃に関する情報(補足情報含む)

番号	時期	時刻	地域	状況要点	カワウソではないかと提供者が判断する要素
1	2012年10月頃	午後3時頃	南予	道を横切り立ち止まり川側へ降りるのを目撃。	尾が太く長いがハクビシンではない。耳は立っていない、体は焦げ茶色下顎側がクリーム色のようなようだった。動きもイヌやタヌキではないようだった。
2	2013年4月11日		県外	詳しいことはよく覚えていないが、必要があれば連絡してほしいとのこと。	不明。
3	2013年4月14日	昼間	県外	これまで3度見た。1回目は夜間であったが、3回目は昨日の昼間に見て写真にも撮った。コツメカワウソかもしれない。	不明。
4	2013年4月18日	午前1時か2時頃	南予	釣りの最中、音がしたので見ると、30mほど離れたところをカワウソのような生き物が泳いでいるところを目撃。	イタチよりはもっと大きい。色は夜中に港の街灯の明かりなので不明瞭だが、濡れたところ乾いているところで色が違うような茶色やグレーに見えた。
5	2013年4月26日	午後3時前	南予	運転中車中から、カワウソのような生き物が海の方へ降りて行ったのを目撃。	不明。
6	2012年4月頃	午前3時頃	南予	カワウソの死体を見た。タヌキやハクビシンとも違う。	不明。
7	2011年頃	昼間	南予	漁の最中島の東側の40mほど沖の海から顔を出してこちらを見ているのを目撃。	他の動物とは見かけが違った。
8	2013年6月8日	昼間	南予	釣りの最中、数回海上に頭を出しているのを目撃。	不明。
9	2013年6月中旬	午前6時半頃	東予	車中から目撃。道にいたが小川の方へ消えた。	前傾姿勢で耳がなくタヌキやハクビシンとは違った。
10	2013年下旬	不明	県外	カニの漁をしているときそれらしきものを目撃。足跡等確認を試みたが、コジャリのためはっきりしない。	アナグマやハクビシン等はわかるがそれらとは違っていた。
11	2012年夏から秋	夜間	南予	2012年夏～秋にかけて同じような場所で3回、海から頭を出した状態を目撃。	以前に実物を見たことがあるので頭の形は分かる。
12	2013年8月10日	午前6時頃	南予	釣りの最中、船上から泳いでいるところを目撃。ひっくり返ったらヒゲが生えていたのが見えた。潜った。	アザラシやラッコではない。
13	2013年8月15日頃	16:20頃	南予	定期便の船の上から黒っぽい獣が海中に潜るのを目撃。水かきが見えたが尾と上半身はよく見れず。しばらく見ていたがそれ以降出てこず。船から70mくらいの距離か。	後足が見えた。県のチラシの足跡に良く似ていた。鶺鴒など水鳥ではない。
14	2011年秋頃	不明	南予	釣りの最中、アジがかかったがそれをすごい勢いで引かれたらしい。(伝聞)	顔を目撃し、髭があった。

別紙【平成25年度】表2 寄せられた情報に対する対応と過去の生息地の現況確認調査

番号	情報の地域	対応年月日	対応	結果
1	南予	2013年5月1日	現地環境確認 自動撮影カメラ 設置	目撃した方に現場付近を案内して頂く、車道上の目撃地点以外の山側はほとんどがコンクリート法面加工で道と山を移動する経路は限られる様子。川側の斜面は常緑広葉樹林でやや急だが獣道あり。中型哺乳類の車道と河川の移動には問題なし。川岸は岩も疎らに露出、人の利用は少なそうである。河原には足跡が残りそうな砂洲などは少なく、痕跡はつきにくそうである。このあたりの上流と下流ではアユを釣る人や網をかけたたりする人もいるが、ここでは木が迫っているので竿を振れず鮎釣りの人もあまり入らないとのこと。水面から3m程上の斜面を水平方向に走る獣道が頻繁に使われていそうなので、そこに自動撮影カメラを一台設置。2014年3月時点、カメラ設置継続中。
		2013年7月19日 2013年11月13日 2014年2月28日	自動撮影カメラ データ回収	
2	南予	2013年6月25日	電話聞き取り	目撃時の状況など以下の詳細な情報を得た。 大きめの魚がはねた様な水音がしたので見たら泳いでいた。大きさは60から70センチ程度、海面なので尾を含むかはよくわからない、イタチよりはもっと大きい。色は夜中に港の街灯の明かりなのでよくわからないが、濡れたところと乾いているところで色が違うような茶色やグレーに見えた。海面なので腹の色はわからず。周木漁港の北の大きい方の堤防の先端から10mほどの距離で見た。一頭だけ。潜ったりせず見えるうちは水面を泳いでいた。声は出さなかった。タヌキは見たことあるがそれではない。
3	南予	2013年6月5日	現地環境確認 自動撮影カメラ 設置	車道が谷に沿ってにカーブする地点。車道より上部は常緑広葉樹とヒノキの混交林、下部は主にダンチクの藪。山側から車道へはそのまま出られ、車道から下部へは法面があるものの階段があり昇り降りは容易。現場周辺は比較的乾燥しており足跡等、痕跡の残りそうな環境は見られなかった。谷を出入りする物が撮影できるように、比較的利用されていそうな車道上部の谷の中に自動撮影カメラを1台設置。2014年3月時点、カメラ設置継続中。※当初、愛媛県南予地方局森林林業課に連絡が入りその後自然保護課に情報が提供されたものの。
		2013年9月25日 2014年3月4日	自動撮影カメラ データ回収	
4	南予	2013年6月25日	電話聞き取り	ご本人、病床についており、お話不可とのこと。詳細不明。
5	南予	2013年6月24日	電話聞き取り	同一の情報提供者からの連絡。一括して目撃時の状況など以下の情報を得た。 いかりを下ろして漁の最中、音がして見たら海上に顔を出していた。40～50mの距離で3回ほど顔出して潜った、イルカ的な動きでなく、下に潜る感じ、他の動物とは全然違う見かけ、腹面の色はよく見えず、顔に柄はないようであった。2件とも似たような様子。以前2002年頃にも同じような感じで見たことがある。
6	南予	2013年6月5日	現地環境確認 自動撮影カメラ 設置	島嶼部は船で海上からの観察の後、上陸し現地環境の確認調査を行なった。そのうち1つの島には谷があり、真水がある可能性がある島の北西側を中心に上陸し調査を行なった。ダンチクの藪が濃く沢の奥まで入ることができなかったが、海岸付近の林縁部で真水の滲み出しが確認された。自動撮影カメラを獣道のしっかりついた谷の入り口に1台設置した。 また、別の島は比較的傾斜の緩やかな北東側の浜を中心に上陸し調査を行なった。砂浜の上に堤防があり建物跡も残存していた。かつて住人がいたことから谷には真水があると思われ、また海岸部に真水の滲み出しが確認された。有人の島との行き来も容易であると思われる。砂浜と斜面が接近し獣道が狭くなっている堤防の内側に自動撮影カメラを1台設置した。両島とも平坦地にはダンチクの藪があり斜面は常緑広葉樹林となっている。昼間は釣り人などが訪れているようであるが、住人はなく、海岸部以外には人が進入することも稀であろうと思われる。カワウソのものと思われる痕跡は発見できなかったが、利用できる岩穴や藪があれば生息の可能性はあると思われた。また両島共にイノシシの痕跡が目立った。 2014年3月時点、両地点ともカメラ設置継続中。
		2013年9月25日 2014年3月4日	自動撮影カメラ データ回収・現 地環境確認	
7	南予	2013年8月28日	電話聞き取り	目撃時の状況など以下の情報を得た。 釣りの最中、船上から目撃、泳いでいるのを目撃。ひっくり返ったらヒゲが生えていたのが見えた。潜った。アザラシやラッコではない。他の人も大島で見たらしい。15年前にも見たことがあるとのこと。
8	南予	2013年8月29日	対面聞き取り	目撃者の勤務する会社の会議室にて目撃者の船員の方2名に対面で聞き取りを行なった。目撃時の状況など以下の詳細な情報を得た。 定期便の船の上から2名同時に目撃。水に潜るのを目撃した際、後足が見えた。県のチラシに書かれていた足跡に良く似ていた。水かきも見えた。尾と上半身は見れず。しばらく見ていたがそれ以降出てこず。船から70mくらいか。鵜は知っているの鳥ではない。釣り人や近所の集落の人も見たことがあるという話もある。
9	南予	2013年8月29日	対面聞き取り	目撃者の勤務する会社の会議室にて自分の父の知人が目撃者したという方に対面で聞き取りを行なった。 釣りの最中、アジがかかったがそれをすごい勢いで引かれた。その際顔を目撃し、髭もみえたとのこと。

※ 同一地域に集中した情報のため一括して現地環境確認調査を行なった。

別紙【平成25年度】表3 自動撮影カメラ設置状況

カメラNo	地域	開始	データ回収日1	データ回収日2	データ回収日3	データ回収日4	日数 [※]	状況
1	南予	2013年2月9日	2013年2月13日	2013年7月19日	2013年12月4日	2014年2月21日	378	終了
2	南予	2013年2月13日	2013年7月19日	2013年12月4日	2014年2月21日	-	374	終了
3	東予	2013年2月16日	2013年6月6日	2013年8月20日	2013年12月11日	2014年2月25日	375	終了
4	東予	2013年2月16日	2013年6月6日	2013年8月20日	2013年12月11日	2014年2月25日	375	終了
5	南予	2013年5月1日	2013年7月19日	2013年11月13日	2014年2月28日	-	304	継続中
6	南予	2013年6月5日	2013年9月25日	2014年3月4日	-	-	273	継続中
7	南予	2013年6月5日	2013年9月25日	2014年3月4日	-	-	273	継続中
8	南予	2013年6月5日	2013年9月25日	2014年3月4日	-	-	273	継続中

【平成25年度】表4 自動撮影カメラ撮影状況

カメラNo	地域	撮影された哺乳類 [※]	種数 ¹	撮影された鳥類 ^{※※}	種数 ¹
1	南予	タヌキ、キツネ、イタチ科の一種、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ノウサギ、ノネコ	8	キジバト、フクロウ、アオゲラ、ヒヨドリ、シロハラ、ルリビタキ、コジュケイ	7
2	南予	タヌキ、イタチ属の一種、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ネズミ類(アカネズミ大)、ノウサギ、ノネコ	8	キジバト、シロハラ、コジュケイ	3
3	東予	ニホンザル、タヌキ、テン、アナグマ、ハクビシン、ノウサギ、アライグマ	7	不明鳥類の撮影あり	1
4	東予	ニホンザル、タヌキ、テン、ハクビシン	4	—	0
5	南予	タヌキ、テン、イタチ属の一種、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンリス、ネズミ類(アカネズミ大)、ノウサギ	9	オシドリ、キジバト	2
6	南予	イノシシ、ネズミ類(ドブネズミ大)	2	カラスバト、キジバト、ハト科の一種 ²	2
7	南予	イノシシ、イヌ ³ 、ノネコ	3	ヤマドリ、キジ、キジバト、イソヒヨドリ	4
8	南予	タヌキ、テン、イタチ科の一種、ハクビシン、イノシシ、ノウサギ、ノネコ	6	キジ、シジュウカラ	2

※ 哺乳類の種名および分類は基本的に日本野生鳥獣目録(環境省 2002)に準拠した。

※※ 鳥類の種名および分類は基本的に日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)に準拠した。

1 「の一種」について、同一の上位分類群に属する種が確認された場合は1種として数えない。

2 画像からはカラスバトとカワラバトの区別がつかないものはハト科の一種とした。

3 イヌは猟犬と推察されるが野良犬の可能性もあり。

ニホンカワウソに関する状況

1 国の「特別天然記念物」に指定

指定年月日：昭和40年5月12日

根拠法令：文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）第69条

2 その他の指定状況等について

○愛媛県の「県獣」（ニホンカワウソ）に指定

指定年月日：昭和39年5月10日

指定根拠：公募

他県の指定状況：全国知事会の取りまとめによると、県獣を指定しているのは、愛媛県を含め11県であり、本県のみニホンカワウソで、本県以外はシカ、カモシカ、ホンシュウジカ、九州シカとなっている。

○「愛媛県レッドリスト」（ニホンカワウソ）

絶滅危惧Ⅰ類 … 絶滅の危機に瀕している種（現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの）

掲載出版：愛媛県レッドデータブック（愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物）

○「環境省レッドリスト」（ニホンカワウソ（本州以南個体群））

絶滅危惧ⅠA類 … 絶滅の危機に瀕している種（現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの）—ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

→ 「第4次レッドリスト」平成24年8月28日 公表

絶滅…最後の生息記録が昭和54年であり、30年以上が経過していること。

ニホンカワウソのような中型の哺乳類が、人目につかないまま長期間生息し続けることは考えにくいこと。

これまでの生息確認調査等の結果から絶滅したものと判断（「ニホンカワウソ 絶滅に学ぶ生物学 安藤元一 著」に基づき環境省が判断）

掲載出版：環境省編レッドデータブック（日本の絶滅のおそれのある野生生物）

3 最近の目撃情報

24年8月以降 31件※

（生物多様性センター12件 自然保護課8件 動物園7件 宇和島市1件 ネイチャー企画3件）

場所	目撃の時期			計
	昭和年代	平成元年～20年	平成21年～現在	
東予	0	1	1	2
中予	0	1	4	5
南予	2	2	14	18
県外	1	1	4	6
計	3	5	23	31

※そのうち18件が南予地域からの目撃情報

4 主な目撃情報

	年月日	目撃情報
1	S60年前頃	カワウソが田と川を行き来していた。

2	S60年前頃	近海で夜釣りをしていたら、針にかかった獲物が手に届く直前にカワウソに盗られた。
3	15年位前	南予地域の地磯で、釣りをしているときに出てきていた。人の近くまで来て、釣り餌の落ちたものを食べていた。
4	約10年前の2月	錯誤捕獲した。今まで見たこともない獣で、足の裏の肉球に吸盤があり、水かきがあったのでカワウソと分かり、放獣した。 目と耳は小さい。頭部は先が尖っていて平べったい。(四万十の剥製とそっくり)
5	H16, 17年頃	中予地域の海岸の沖、約30m付近で泳いでいた。時間帯は、18時前後。この頃は、目撃者は多数いた。
6	H19年頃	体長1mほどのカワウソらしい動物(黒くて、白が少しあって、尻尾が長くて、体が大きく、ハクビシンでない動物)が谷川に下りる所を何度か見かけた。
7	H23年10月下旬	中予地域の海岸の沖、約500m付近で目撃した。波に合わせて飛ぶような、浮くような泳ぎ方をしていた。80cm位あるように見えた。